

第3章

FX会社に口座を 開設するときの 目のつけどころ

- 001 FX会社を選ぶときはここに注目しよう【1】 38
- 002 FX会社を選ぶときはここに注目しよう【2】 39
- 003 FX会社を選ぶときはここに注目しよう【3】 40
- 004 FX会社を選ぶときはここに注目しよう【4】 41
- 005 投資の選択肢を広げるために商品ラインアップに注目 42

第3章

FX会社に口座を開設するときの目のつけどころ

001

FX会社を選ぶときは
ここに注目しよう【1】

FX会社に初めて口座を開設するときは、どの会社を選んで良いか悩むところです。ネームバリューのある会社がベストとは限りませんし、あまり小さな会社もサービスなどの点で不安です。そこで、FX会社を選ぶときのポイント、注意点などをご説明しましょう。

外国為替市場の特徴とFXの仕組みがだいたい分かったところで、早速、FX会社に口座を開設してみましょう。まず、FX会社を選ぶときのポイントを整理しておきたいと思います。

FX会社といっても、FXだけを取り扱う会社から株式や投資信託からFXまで幅広く取り扱っているところまであります。また、三菱や住友といったメガバンクの傘下にある証券会社のFX部門もあれば、FX専業会社や、大手に属さない独立系の会社もあります。さらに、初心者や入門者に優しい会社もあれば、上級者向けの会社などさまざまです。

FX会社や証券会社に口座を初めて開設するのであれば、インターネットでの人気ランキングから上位の会社を選んでみるのも手です。

▶▶個人投資家の人気が高いことはFX会社選びのバロメーター

FX会社を選ぶポイントはいくつかあります。日常、取引をするときに気になるのが、スプレッドです。また、試していくつか口座を開設してみ

初心者・入門者向け

メガバンク系

信頼度抜群
中級レベルには不満

大手証券系

独立・中堅証券系

サービス精神旺盛

外資系

情報・機能ともに充実
敷居が高いケースも

中上級者向け

独立・中堅証券系

質・量ともに豊富

外資系

専門知識などが必要



FX会社を選ぶポイントはコレ



るときには、ひとつ大事な点を確認しなければなりません。

それは、**口座開設後に1万円とか10万円といった金額の証拠金を振り込まないと為替レートを表示してくれないところや、ログインすらできないところ**もあります。これは、試して口座を開設する人が増えたからです。

FX会社にとって、取引をしない口座が増えるのは、手間がかかったり、管理コストがかかったりするためメリットがありません。そのため、証拠金を預けさせることで、稼働率を少しでも高めようという狙いがあります。

ただ、個人投資家から人気が高いFX会社は、そうした間口の狭さを感じさせないところも評価されています。言い換えれば、「そのうち取引してくれれば良いですよ」という懐の深い姿勢があるわけです。

スプレッドの広い狭いを気にする前に、まず、この点を確認することをお勧めします。さもないと、あちこちに口座を開設して、証拠金を振り込む手間と時間とコストが無駄になりますし、お金が分散してしまうのも非効率的ですからね。

第3章

FX会社に口座を開設するときの目のつけどころ

002

FX会社を選ぶときは
ここに注目しよう【2】

口座を開設するときには、スプレッドとスワップ金利が気になるころでしょう。スプレッドも単に狭いというだけでは、取引に慣れてきたときに不自由さを感じる場合があります。できれば、取引条件や通貨ペア選びの面で自由度の高いFX会社を最初から選んだ方が、先々、得ですね。

スプレッドは、個人投資家にとってはコスト、FX会社にとっては収益になります。皆さんの立場からすれば、コストは安いほうが良いに決まっています。しかし、ホームページで表面的に書かれているスプレッドだけを見て、口座を開設。そして、通貨ペアを選んで取引しようとする、イメージよりもスプレッドが広いというときがあります。

これは別に、FX会社が嘘をついているのではなく、一番狭いスプレッドの通貨ペアを大々的に告知しているため、最初に「この会社のスプレッドはすべて狭い」というイメージを植え付けられてしまうからです。

▶▶ドル／円とユーロ／ドルのスプレッドだけが極端に狭い

FX会社は、スプレッドを狭くすることで投資家を取り込もうと躍起です。薄利多売で競争に勝ち残ろうとしているからです。しかし、取引量の多いドル／円とユーロ／ドルはスプレッドが極端に狭くても、他の通貨ペアが他のFX会社に比べてかなり広いというケースもあります。

**FX会社
人気ランキング**

No.1 狭いスプレッド

1~2種類だけか
全般的に狭いか
数社で比較検討

超短期・大資金向き

通貨ペア選びの余地がない

A社 狭さ
No.2 スプレッドが
狭い通貨ペア
ドル／円 ユーロ／ドルだけ \$ ¥
€ \$

B社 狭さ
No.1 スプレッドが
狭い通貨ペア
ドル／円 だけ \$ ¥
\$ ¥

比較的万能

通貨ペア選びの余地がある

C社 No.1でも
2でもない 主力通貨ペアは平均的に狭い
ドル／円 ユーロ／ドル ユーロ／円
ポンド／円 豪ドル／円 \$ ¥
€ \$
€ ¥
£ ¥
\$ ¥

FX会社を選ぶポイントはコレ

ドル／円やユーロ／ドルで満足していても、取引に慣れてくると、他の通貨ペアに目移りする場合があります。しかし、**スプレッドが広いと通貨ペア選びの自由度が制限**されてストレスがたまってしまいます。

また、無理に取引をすれば、コスト負担が大きく、なかなか利益をあげることができません。**主要な通貨ペアを比較して、可もなく不可もなくというところを選んだ方が後々、使い勝手が良い**はずですよ。

ちょっと裏話を紹介しましょう。ある証券会社のFX部門は、専業に比べて圧倒的に広いスプレッドを提供していました。これは、株式取引の口座を持つ投資家が手間を嫌って、同じ会社内にFXの口座を開設する人が多かったからです。他のFX会社がスプレッドの引き下げ競争をしても、その会社は広いまま。それでも、お客さんは離れていかなかったそうです。

投資家は口座開設の手間だけでなく、使い慣れた取引画面が変わることを嫌い、コスト面で不利でも使い続けるケースが多いそうです。選択は投資家の自由ですが、最初が肝心だということに変わりはありません。

第3章

FX会社に口座を開設するときの目のつけどころ

003

FX会社を選ぶときは
ここに注目しよう【3】

スプレッドや最低預け入れ金額などの条件は、データを比較すれば分かります。しかし、システム面の善し悪しは、口座を実際に開かないと分からないことも多々あります。正式に手続きしないデモ口座を使って確認することもできますが、やはり、それだけでは不十分なケースがあります。

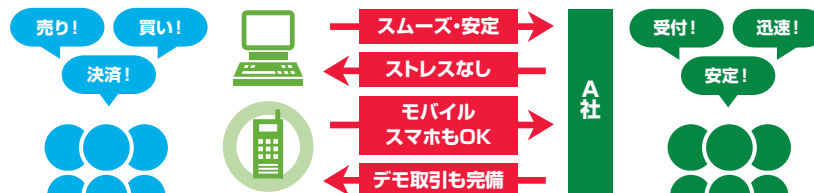
数値で比較できる取引条件面のほかに、忘れてはならないのがシステム面のチェックです。

外国為替市場は日夜眠ることなく、世界を駆け巡っています。何かをきっかけに突然、相場が動き出す。そういうことだってあります。金融の世界は、流動性が命。買いたいとき、売りたいときにしっかりと取引できることが何よりも大切です。

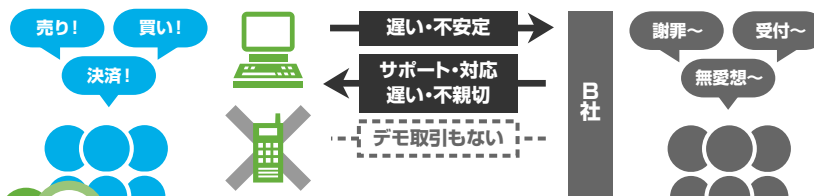
ところが、インターネットの接続環境が光ファイバーなどで早くなったとしても、FX会社のシステムが重かったり、反応が遅かったりすれば、しっかりとした取引はできません。また、最近では減ったとはいえ、過去にシステムダウンを何度も起こしている会社は、たとえ取引面の条件が魅力的でも避けるべきでしょう。

多くの会社は、注文を出せば瞬時に応答して、買えたか、売れたかの結果が分かるようになっていきます。しかし、中には、注文ボタンを押しても一向に応答がなく、時に1分も待たないと、注文が通ったかどうかすら分

至れり尽くせりのFX会社



投資家に優しくないFX会社



FX会社を選ぶポイントはコレ

からないFX会社もありました。これはそれほど古い話ではありません。

▶▶ モバイル口座を完備していることは必須条件

多くの個人投資家は、日頃は仕事をしていたり、家事をしていたりします。つまり、四六時中、パソコン画面の前に張り付いて取引できるわけではありません。また、外出や就寝、食事をするときも同様です。スプレッドが業界最低と宣伝していても、モバイル口座がなければ、機動的で安心した取引はできません。携帯やスマートフォンなどのモバイル端末で相場の動きを確認できる環境、つまり、**モバイル口座を完備している会社を選ぶのも、スムーズな取引をするための必須条件**といえるでしょう。最近では大方で完備しているようですが、念のため、この点も要チェックです。

スプレッドとシステムに関することでは、相場が急変動すると、スプレッドが極端に広がることがあります。これはあまり好ましいことではありません。できるだけ変動の小さい会社を選ぶのも大切なポイントです。

第3章

FX会社に口座を開設するときの目のつけどころ

004

FX会社を選ぶときは
ここに注目しよう【4】

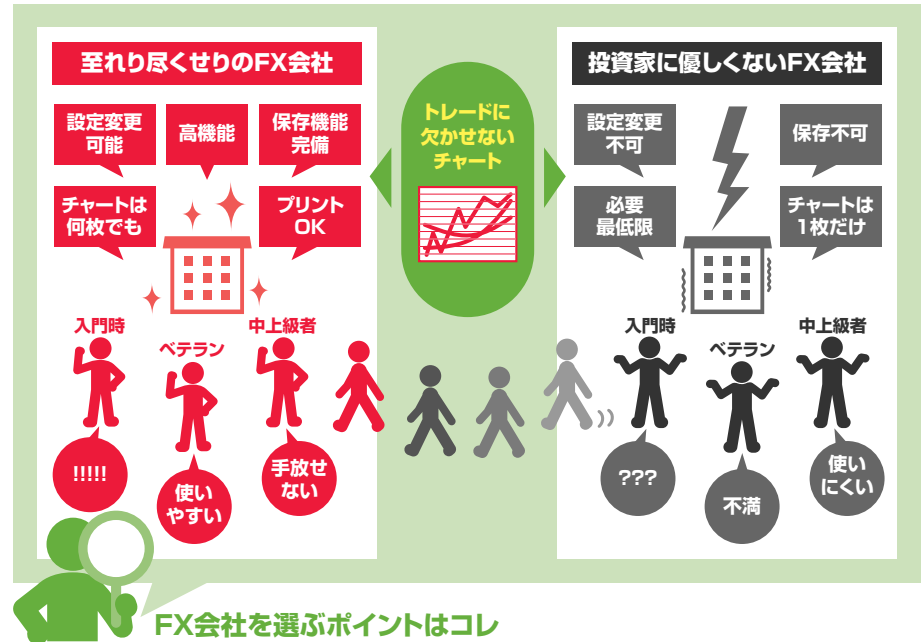
実際に取引をするときに、必ず使うのが相場の動きを時系列に表示したグラフ＝チャートです。最初は使いこなせなくても、取引に慣れてくると、だんだんあれこれと使いたくなります。やはり、高い機能を兼ね備えたチャートシステムを提供している会社は、最有力の候補になるでしょう。

詳しい解説は第7章に譲りますが、相場の動きを示すチャートには、それは数多くの使い方があります。様々な方法で導いた数値で売りや買いのタイミングを計ったり、線を引いて相場の動きを分析したりといった具合にです。チャートは、できるだけ高い機能を持っていたほうが、取引が上達したときの満足度だけでなく、取引の成績にも直結します。

しかし、最初のうちは、チャートの善し悪しを判断するのは難しいと思います。判断のポイントは、単純に「高機能」とか、「上級者向け」とか書いているものがあれば、それに超したことはないでしょう。

002項で書いたように、取引やFX会社の画面に一度慣れると、別の会社に口座を開設して取引をする気にはなれません。また、口座を乗り換えたとしても、新しい会社の取引画面や情報画面に慣れるまでは勝手が分からずストレスがたまり、成績を落としてしまう投資家もたくさんいます。

こうした点でも、**入門者、初心者のうちいくつかの口座を開設しておいて、いろいろ触ってみる**。そして、**使い勝手を確認できる環境を整えて**



おくことが大切です。

▶▶あまり小さい会社やあれこれやっている会社は避ける

最後に、会社のブランドや規模の点について触れておきましょう。金融商品を取り扱う会社は、金融庁の指導もあり、経営の面でかなり安定してきました。預け入れた証拠金は、FX会社が経営のために使ってしまうないように分別管理することも当たり前になりました。

それでも、小さな会社や投資家との取引以外の事業が本業の会社は避けるべきでしょう。というのも、FXの世界も競争が熾烈になってきて、体力のない会社は徐々に淘汰されたり、儲からなくなれば撤退してしまうからです。スプレッドを狭くして取引量の多い通貨ペアに誘導するということは、すでに書いたように薄利多売の事業構造。そのため、メガバンクや大手証券の系列、独立系であれば上場していたり、外資系であれば「世界有数の～」といった会社の信頼性が高いのはいうまでもありません。

第3章

FX会社に口座を開設するときの目のつけどころ

005

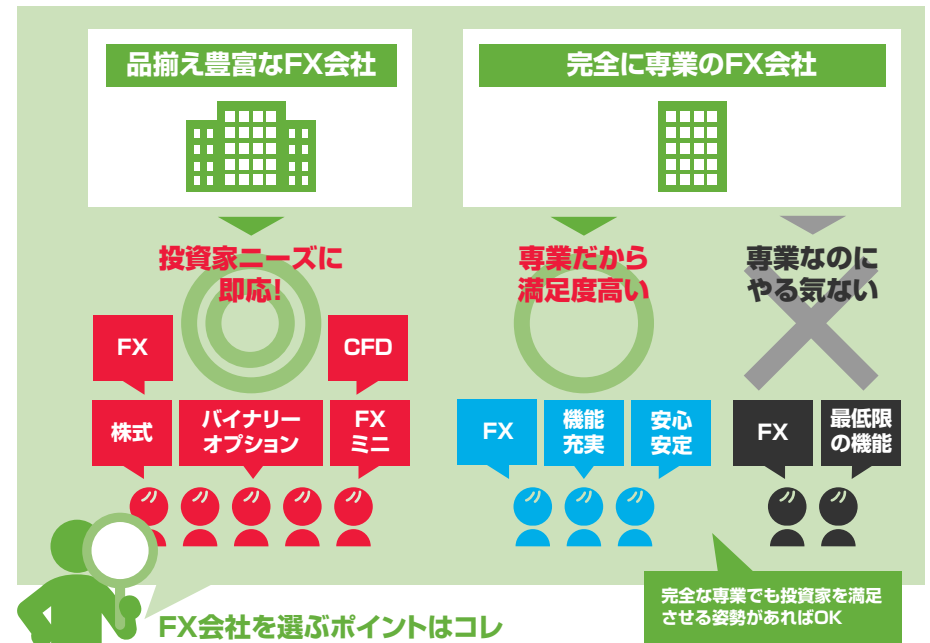
投資の選択肢を広げるために
商品ラインアップに注目

投資の世界は新しい金融商品が続々と登場しています。中でも、注目すべきなのが、原油や金などの商品相場。中国やインドなど人口がとてつもなく多い国の経済が先進国並みになろうとしていますから、資源や穀物の需要はあっというまに高まり、外国為替相場への影響も大きくなります。

金融商品には多彩な顔ぶれが揃っています。中でも最近、**個人投資家の間で注目されているのが、原油や金などの資源や貴金属、小麦や大豆などの穀物といったコモディティ（商品）、世界各国の株式指数を取引する分野**です。この分野には、株式市場に専用の上場投資信託（ETF）が登場していますが、FXに似たCFDという金融商品もあります。

CFDとは、英語の「Contract For Different」の頭文字をとった略語で「差金決済」という意味。FXも差金決済です。差金決済というのは、買ったときにその代金をすべて支払うのではなく、売って決済したときの差額分を清算する仕組みです。

たとえば、1ドル100円のドル／円を1万通貨単位買えば、100万円が必要です。ところが差金決済なら、1ドル102円になったときに売って決済すれば、2万円分だけのお金をやりとりする、つまり、この場合は、2万円の利益を受け取るだけです。逆に98円になって、これ以上の損失は避けたいと思えば、決済をして2万円を支払うと取引は完了します。



世界の経済は、中国やブラジル、インドなどの新興国が牽引しています。これらの国はいずれも人口が多く、経済が発展すればたくさんの原油やレアメタルを使います。すでにそうなっていますが、今後も景気の波があっても、需要が減ることは考えにくい状況です。

そうすると、**通貨だけでなく、コモディティの相場も重要な投資先**となります。CFDが注目を集めているといっても、まだ日本に登場して日が浅いことから、これからの普及が期待されているレベルです。

しかし、投資の選択肢は広いほど良いわけですし、いまや外国為替の世界も商品相場に大きな影響を受けます。CFDの取引は上級者になってからですが、商品相場がどのような動きをしているかを常に把握できる環境を整え、身近な存在にしておくことも、取引が上達する秘訣です。

FX会社選びをするとき、決め手になる条件ではありませんが、商品ラインアップとしてCFDを揃えているかどうか、余裕があれば、チェックすることをお勧めします。将来、きっと役に立つはずですよ。